保護犬を考える

保護犬シンデレラ・ストーリーズ

保護活動の今～地域連携を探る

保護された犬の数だけ物語がある――。
保護犬にまつわる様々なドラマをご紹介している「保護犬シンデレラ・ストーリーズ」。
今回は都道府県と政令市が連携し、運営する全国初の「京都動物愛護センター」を紹介します。
最先端の開放的な施設や、独自の運営形態を活用した取り組みが話題を呼んでいます。

case.13 京都動物愛護センターの犬・猫たち

捕獲時9カ月のロンくん。生後4カ月で本センターから譲渡され、元気いっぱいの日々を過ごす。

京都府・市が連携した保護活動のモデルケース

春の柔らかな陽を浴び、ドッグランの中で犬たちがのびのびと楽しそうにじゃれ合っている。京都駅から約2㎞の市街地にもかかわらず、テニスコート約12面分もの広さがあるという。大型犬用と中・小型犬用、個別利用の3区画が整備されたこの広大なドッグランは、昨年4月に開設した「京都動物愛護センター」が運営している。保護犬・猫の譲渡事業を手がけるほか、しつけや動物との適切な関わり方などを啓発する事業も推進している。

「当センターは京都府と京都市が共同で運営する動物愛護施設です。府と市が連携することで、二重行政の無駄をなくし、保護犬・猫の譲渡対象が京都府全体へと広がりました。都道府県と政令市が連携した事業運営は全国初。各地の自治体から見学に来られる方も多いんです」

そう語るのは本センター次長で獣医師の神村孝さん。職員数21名の内8名が獣医師だ。センター内の治療室で昼間は保護された動物の治療を行い、夜間は公益社団法人京都市獣医師会が「京都夜間動物救急センター」を運営している。

ボランティアの存在も特徴的だ。書類審査や面接、約8回もの研修を受けたボランティアが100名程在籍し、シフト制で受付業務や掃除、施設の案内などを担当。個人の特技を生かして、掲示物の作成を行ったり、「愛ランド通信」という啓発機関誌を年4回発行している。職員とボランティアが協働し、しつけや歯磨き指導のマンスリーイベントを開催するなど工夫を重ねながら業務に当たり、非常によい環境が出来上がっている。

ドッグラン利用者の相談に応える神村孝さん（左）。雨でも利用でき、京都駅からも近く、気軽に立ち寄れる。

京都動物愛護センター。太陽光発電や地中熱利用も実施。

殺処分ゼロに向けて思いを一つに

取材当日は、犬や猫のしつけやトレーニングを行っているセンター専属のトレーナー山本央子さんが、保護犬の譲渡者を対象にした「ペットと快適に暮らすセミナー」を開いていた。昨年6月にセンターから犬の譲渡を受けた参加者は、「どんな小さな悩みでも相談でき、的確なアドバイスをもらえる。愛護センターで譲渡を受けるとこんなに手厚いフォローがあることをもっと皆に知ってほしい」と語る。本センターでは譲渡後のフォローを重視し、こうしたセミナーも実施。ドッグランに遊びに来た際でも、職員が常駐しているため気軽に悩みを相談できる。こうした努力により「譲渡後の返還数ゼロ」を達成している。

保護される犬・猫の数自体を減らす取り組みにも積極的だ。犬や猫の飼い主が安易に飼育放棄をしてしまうことや、迷子の犬や猫への対策として注目を集めているのが「マイクロチップ」だ。ペットに装着することで、保護した際にマイクロチップリーダーで情報を読み取れば、飼い主が特定できる。

「当センターでもマイクロチップリーダーを活用しており、センターで譲渡するすべての犬・猫にマイクロチップを装着しています。保護活動と並行して、保護犬・猫の数を減らす取り組みは欠かせないと思います」と、神村さん。マイクロチップリーダーの購入資金は、メリアル・ジャパンの手がける「セーブペットプロジェクト」による寄付から賄われ、関係各所を通じて本センターに贈呈された。セーブペットプロジェクトでは、ノミ・マダニ駆除薬の「フロントライン」や「ネクスガード」、フィラリア症予防薬の収益の一部を、保護犬・猫を支援する活動に寄付している。こうした取り組みは、資金が不足しがちな保護活動の大きな支えとなっている。

平成28年1月末時点で、67頭の犬と26頭の猫をセンター内で飼育。飼育時は常時訓練に心じている。

動物福祉における一番の問題点は「垣根」である。垣根があることで、譲渡対象が広がらない、職員の手が足りないなどの問題が起こりがちである。利用者と職員、職員とボランティア、都道府県と政令市、一般企業と行政。本センターはあらゆる垣根を越える新時代の動物愛護センターといえる。その活動は多くの人々の心に届き、着実に実を結び始めている。

セミナーにて講師を務める山本央子さん。犬の行動を理解した上でしつけることが重要と話る。

保護犬を新しい家族に迎えませんか

平成28年3月31日現在
問い合わせ件数1,172件のうち、
保護犬譲渡 成立数360件
sippoの記事を読んで保護犬の引き取りを決められた方がいらっしゃいます。

譲渡サポートシステム「しっぽネット」の仕組み

NPO法人ワンワンパーティクラブのしっぽネットでは、保護犬の譲渡を行っています。運営費用は、補助助成金、企業協賛金、寄付金で成り立っています。飼い主となる方の費用負担はありません。

保護団体
飼い主のいない保護犬や情報の提供
↓
しっぽネット
保護犬の医療ケア・しつけ・犬親のマッチングetc
↓
新しい飼い主さん
譲り受けた後、しっぽネットのドッグライフカウンセラーのサポートがあります。

保護犬を引き取りたい方はコチラ
しっぽネット連絡先
朝日新聞「sippo」を見たとお伝えください。
電話　080-7051-8243（10時～18時）
メール　sippotkow@wanwan.org
NPO法人ワンワンパーティクラブ
http://www.wanwan.org

ノミ・マダニ駆除薬「フロントライン」シリーズの
知っていますか？
セーブペットプロジェクト
SAVE PET PROJECT

病院でのノミ予防・マダニ対策が保護犬・保護猫たちの幸せにつながります。

※平成25年度環境省データより

1年で約13万頭※。飼い主に捨てられ、殺処分されるイヌやネコの数です。「セーブペットプロジェクト」は、動物病院で処方されるメリアル・ジャパンのノミ・マダニ駆除薬「フロントライン」「ネクスガード」犬フィラリア症予防薬の売り上げの一部を、飼い主のいない動物たちを救うために役立てる動物愛護プロジェクトです。あなたのペットへの愛情が、行き場をなくした動物たちの幸せへとつながります。

セーブペットプロジェクトでは、NPO法人ワンワンパーティクラブを通じ、これまで400頭もの被災犬の保護活動を支援してきました。現在は、被災ペット以外の保護犬たちの支援活動にも尽力しています。

詳しくはウェブサイトへ　セーブペット　検索

おいしい！経口タイプのノミ・マダニ駆除剤
ネクスガード®
犬用ノミ・マダニ駆除剤　動物用医薬品

嗜好性の高いソフトチュアブルタイプ
ノミを6時間以内、マダニを24時間以内に駆除
駆除効果は1カ月持続

最も多くの獣医師に選ばれている（※）ノミ・マダニ駆除薬
※DBI調査当時2016年
フロントライン プラス®
ドッグ（犬用ノミ駆除・寄生予防／マダニ・シラミ・ハジラミ駆除剤）　動物用医薬品
キャット（猫用ノミ駆除・寄生予防／マダニ・ハジラミ駆除剤）

※メリアルの登録商標

資料請求　ノミ・マダニの怖さ、予防の大切さをリーフレットにまとめました。　資料請求はコチラから http://enq.digital.asahi.com/epost/

メリアル・ジャパン株式会社　日本全薬工業株式会社